

# Nara Women's University

## 『都城制研究(14)』 発刊にあたって

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 奈良女子大学古代学学術研究センター 公開日: 2020-09-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西谷地,晴美 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10935/5668">http://hdl.handle.net/10935/5668</a>

## 『都城制研究（14）』 発刊にあたって

『都城制研究（14）』をお届けします。「天下の中心としての都城」がテーマです。

これで奈良女子大学が発刊してきた『都城制研究』は、21世紀COEプログラム報告集として出された（1）～（3）を一応除外すると、古代学学術研究センターの研究誌として（4）～（12）、大和・紀伊半島学研究所 古代学・聖地学研究センターの研究誌として（13）と（14）を出したことになります。

古代学学術研究センター発足以来の『都城制研究』の研究テーマは以下のようでした。

（4）東アジアの複都制、（5）都城における坪・町と小規模宅地の検証、（6）都城の廃絶とその後、（7）古代都城をめぐる信仰形態、（8）古代都城と寺社、（9）東アジア古代都城の立地環境、（10）古代都城のその後と古都へのまなざし、（11）日本古代の都城を造る、（12）都城と交通、（13）都城の災異と弱者、そして今回の（14）天下の中心としての都城、です。掲載した論文の総数は（4）～（14）で合計83本にも及びます。

この『都城制研究』は、平城京を中核とした古代都城制の研究分野において、とても大きな役割を果たしてきました。古代都城をめぐる上記の多様な研究テーマと論文数とその証左です。しかしまことに残念ではありますが、今回の（14）が『都城制研究』の最終刊になります。当センターは大和・紀伊半島学研究所の内部センターとして、大和国だけでなく紀伊半島地域も研究対象に据え、広域的な視点から古代学と聖地学を研究する役割を担うことになりました。平城京など古代史に関する論考は今後、当センターの研究誌『古代学』を名称変更した『古代学・聖地学』に一括して掲載する体制になります。当センターでは古代学研究を継続して参りますので、今後ともよろしくご支援くださいますようお願い申し上げます。

2020年4月8日

大和・紀伊半島学研究所

古代学・聖地学研究センター長

西谷地 晴美